



## 問 久居こどもの遊び場づくり事業の進め方について問う

令和7年度から10年度までの交付金として国に申請している「新しい地方経済・生活環境創生交付金」の対象事業費を約8億8千万円としており、これは具体的なプランがあるということの意味している。現在、当該事業について市民から意見を募集しており、このプラン外の良い意見を採用しようとする交付金の枠を超える可能性があるが、そのような場合にはどのような対応をするのか。

## 答 毎年度の交付金申請時に市民の意見を反映させていく

久居こどもの遊び場づくり事業については、4年間で総額約8億8千万円の事業として交付金を申請し、国の承認を得ているものであるが、当初の申請内容を全く変えられないというものではないと認識しており、毎年度の交付金申請時に市民からの意見を反映させた事業計画を提出していくことを想定している。

また、交付金の額についても、物価高騰や人件費の高騰といった環境の変化も想定されるため、国が毎年度審査をする中で、説明がつく範囲においては増額も認めてもらえるものと認識している。

### その他の質疑・質問

- 林業振興について
  - 津市の木材利用の取り組みについて
  - 森林環境譲与税およびみえ森と緑の県民税の利用状況について
- ハザードマップの作成について
  - 作成に要する期間について
  - 今後について

プールを廃止し、交流イベントエリアやキッチンカーエリア等を有した公園を建設する予定



## 問 組織風土改革について問う

人口減少社会の進展により、人手不足の深刻化は自治体も例外ではなく、今後の人材確保が課題である。若い世代が就職先を選ぶ際に重視する点の一つに風通しの良い組織であるかどうか挙げられるが、職員が組織の中で言いたいことを言える心理的安全性の確保に向けた取り組みは。また、人事ローテーションの在り方についてはどのように考えているか。

## 答 今後も職員と所属長とのコミュニケーションを図っていく

心理的安全性の確保が職場にもたらす効果としては、職場の風通しが良くなり、職場の人間関係が改善されるとともに、個人や組織の生産性が向上することなどが挙げられる。津市においては、全職員に対して毎年実施している人材評価における面談を、所属長と職員が相互にコミュニケーションを図る場として活用しており、引き続きこのような取り組みを続けていく。また、定期的な人事ローテーションにより職員に必要な知識や技術を着実に身に付けさせるとともに、職員同士のつながりをさらに深めるなど、市役所が組織として成長し、活性化するよう取り組んでいく。

### その他の質疑・質問

- 高虎サミット開催に向けた取り組みについて
  - 令和8年度の開催に向けての取り組みは
  - 関係団体との連携は
- 戦略的な観光振興の取り組みについて
  - 津市の観光の現状は
  - 今後の観光誘客に向けて
  - 関係機関との連携は

職員研修を通じて、風通しの良い職場づくりを

